

（優れた意匠の町家を残している「宇陀松山地区」）

昭和50年の文化財保護法の改正により、「伝統的建造物群保存地区」制度が発足し、全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになった。

奈良県東部にある宇陀市は平成18年1月に同市松山地区を重要伝統的建造物群保存地区と定め、国へ申出を行い、同年7月5日、選定を受けた。

宇陀市松山地区は、戦国時代に秋山氏の城下町が形成され、天正13年（1585）同氏が追放された後、豊臣秀吉の弟、秀長の家臣らにより城の大改修と町の整備がされた。元和元年（1615）からは織田藩の支配となるが、元禄7年（1694）に国替えとなり、幕府の天領となった。

京都や奈良と伊勢を結ぶ交通の要衝であった当地は「宇陀千軒・松山千軒」と呼ばれ、薬種、絞油、宇陀紙や吉野葛といった周辺地域の特産物を販売するなど江戸時代から活況を呈するようになった。

明治時代には郡役所や裁判所が置かれ、宇陀の政治・経済の中心となった。

松山通りには、江戸末期～昭和初期にかけての伝統的な建物が約200戸残り、往時の雰囲気や今に伝えている。

保存地区は東西約340m、南北約1,470m、面積約17.0haの範囲で、宇陀川に沿って緩やかなカーブを描いて南北に延びる道筋に建物が連なり、水路が通る。

主屋は、切妻造で、ほとんどが中2階建あるいは2階建、間口は約5mから9mと比較的広い。各町家によって、1階正面外観は意匠の凝った格子、2階正面には様々な形状の虫籠窓で飾り方が違う。漆喰仕上げの外壁は、町並みを重厚にみせている。

「松山地区まちづくりセンター」の森本氏は、「町を構成する一軒一軒の建築物が地区の宝物。地元の人が、誇らしげに町のよさを次世代に伝え

てほしい」と語っている。

南北に長く連なる町家群は、まわりに見える山々と調和し、独特の雰囲気をかもしだしており、多くの人に散策を楽しんでもらいたい。（上田）



▶ 山邊義徳家住宅

切妻・つし2階・棧瓦葺・平入で、規模は間口約12.6m、2列6室の居室構成。かつては宇陀紙の総元締めを家業としており、「山邊長助」を世襲、藩札の原版や宿札が残っている。



▶ 都司家住宅

主屋には明治4年の愛宕祈禱札があり、明治元年頃の建築と伝わる。2列6室タイプを基本とした間取りで、土間側に広縁を持つ。

問い合わせ先 松山地区 まちづくりセンター
『千軒舎』

住 所：奈良県宇陀市大宇陀区拾生1846番地
TEL：0745-87-2274
開館時間：9:00～17:00
休館日：毎年12月29日～翌年1月3日

これからの主な催し

〔主な行事〕

● 9月17日（水）18:30～21:00頃

東大寺二月堂 十七夜盆踊り

二月堂の「十七夜盆踊り」は平成5年に復興されたもので、二月堂下の広場で行われ、自由に参加出来る。奈良ではこの「十七夜盆踊り」が盆踊りの踊り納めであったといわれている。18時から二月堂本堂で法要がいとなま

れ、盆踊りは18時半から行われる。

場所：奈良市雑司町

問い合わせ先：東大寺

TEL：0742-22-5511

交通：JR・近鉄奈良駅からバス、大仏殿・春日大社前下車徒歩15分